

2016年3月期第2四半期決算説明会

2015年11月9日



- I. 2016年3月期第2四半期決算概要
- II. 事業の概況
 - ・ライフサイエンス事業
 - ・電子材料および機能性化学品事業
- III. 2016年3月期業績予想

I . 2016年3月期第2四半期決算概要



2016年3月期第2四半期（累計）決算概要



(単位：百万円)

	当期実績	前年同期実績	当初計画	前年同期比		計画比	
				増減額	増減率	乖離額	乖離率
売上高	17,577	14,359	17,000	+ 3,218	+ 22.4%	+ 577	+ 3.4%
営業利益	3,564	2,270	2,600	+ 1,294	+ 57.0%	+ 964	+ 37.1%
経常利益	3,660	2,299	2,600	+ 1,360	+ 59.2%	+ 1,060	+ 40.8%
四半期純利益	2,446	1,441	1,700	+ 1,004	+ 69.7%	+ 746	+ 43.9%
償却前営業利益	4,464	3,221	3,497	+ 1,243	+ 38.6%	+ 967	+ 27.7%
一株当たり 四半期純利益	77.6 円	45.7 円	53.9 円	+ 31.8 円		+ 23.7 円	

*** 上半期として過去最高の売上・利益を達成**

セグメント別売上高・営業利益【前期比】



(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	前期 ('15/3期) 上期	当期 ('16/3期) 上期	前年同期比		前期 ('15/3期) 上期	当期 ('16/3期) 上期	前年同期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
ライフサイエンス事業	9,255	11,516	+2,260	+24.4%	1,025	1,646	+620	+60.5%
電子材料および 機能性化学品事業	5,103	6,061	+957	+18.8%	1,624	2,389	+764	+47.0%
(調整額)	—	—	—	—	△380	△470	△90	—
計	14,359	17,577	+3,218	+22.4%	2,270	3,564	+1,294	+57.0%

2016年3月期四半期別の業績



(単位：百万円)

	第1四半期 (4-6月)			第2四半期 (7-9月)		
	'16/3期 1Q	前年同期比		'16/3期 2Q	前年同期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	8,925	+1,424	+19.0%	8,651	+1,794	+26.2%
営業利益	1,730	+406	+30.7%	1,833	+887	+93.8%
経常利益	1,786	+458	+34.5%	1,873	+901	+92.9%
四半期純利益	1,083	+288	+36.3%	1,362	+715	+110.8%
償却前営業利益	2,188	+389	+21.7%	2,276	+853	+60.0%
一株当たり 四半期純利益	34.4 円	+9.1 円		43.2 円	+22.7 円	

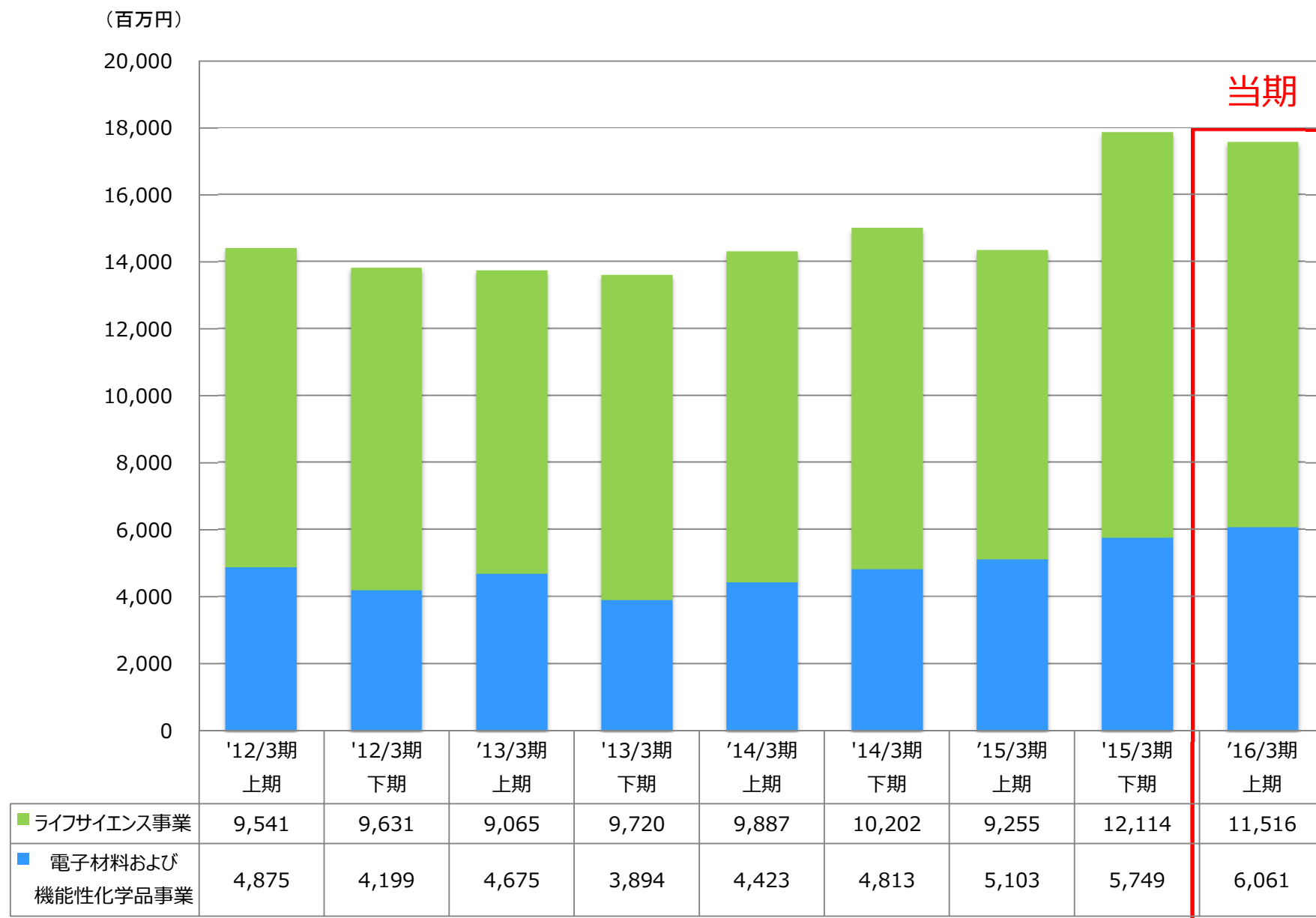
2016年3月期四半期別セグメント別業績推移



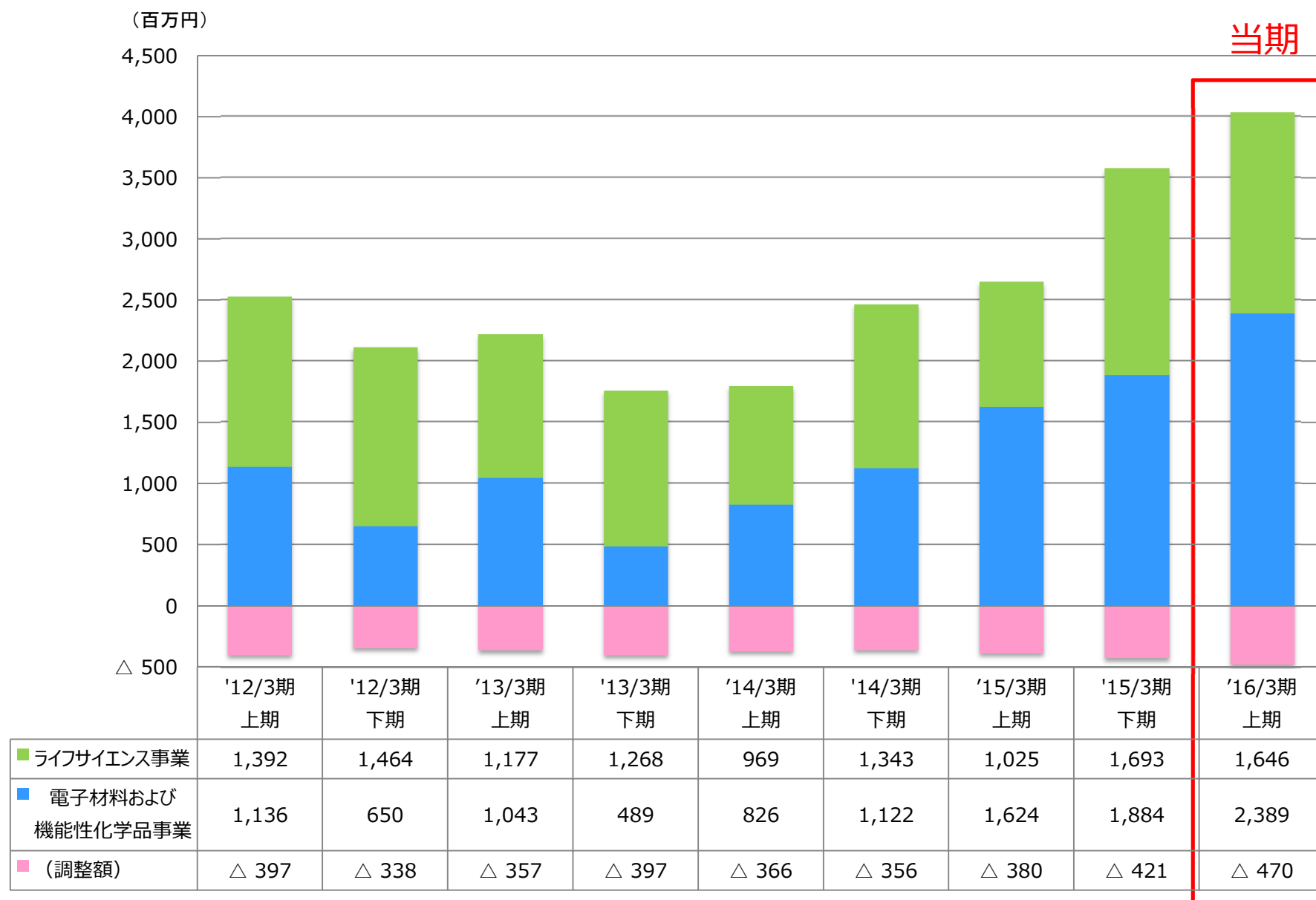
(単位：百万円)

		2016年3月期			
		1Q (4-6月)	2Q (7-9月)	上期実績 (4-9月)	10/9公表 修正計画 通期予想 (4-3月)
売上高	当期	8,925	8,651	17,577	35,500
	前期	7,501	6,857	14,359	32,223
ライフサイエンス事業	当期	5,695	5,820	11,516	24,000
	前期	4,787	4,467	9,255	21,370
電子材料および 機能性化学品事業	当期	3,230	2,831	6,061	11,500
	前期	2,713	2,389	5,103	10,853
営業利益	当期	1,730	1,833	3,564	6,450
	前期	1,324	945	2,270	5,426
ライフサイエンス事業	当期	631	1,014	1,646	3,300
	前期	567	458	1,025	2,718
電子材料および 機能性化学品事業	当期	1,331	1,057	2,389	4,100
	前期	951	673	1,624	3,508
(調整額)	当期	△232	△238	△470	△950
売上高営業利益率	当期	19.4%	21.2%	20.3%	18.2%
	前期	17.7%	13.8%	15.8%	16.8%
ライフサイエンス事業	当期	11.1%	17.4%	14.3%	13.8%
	前期	11.8%	10.3%	11.1%	12.7%
電子材料および 機能性化学品事業	当期	41.2%	37.3%	39.4%	35.7%
	前期	35.1%	28.2%	31.8%	32.3%

セグメント別売上高推移



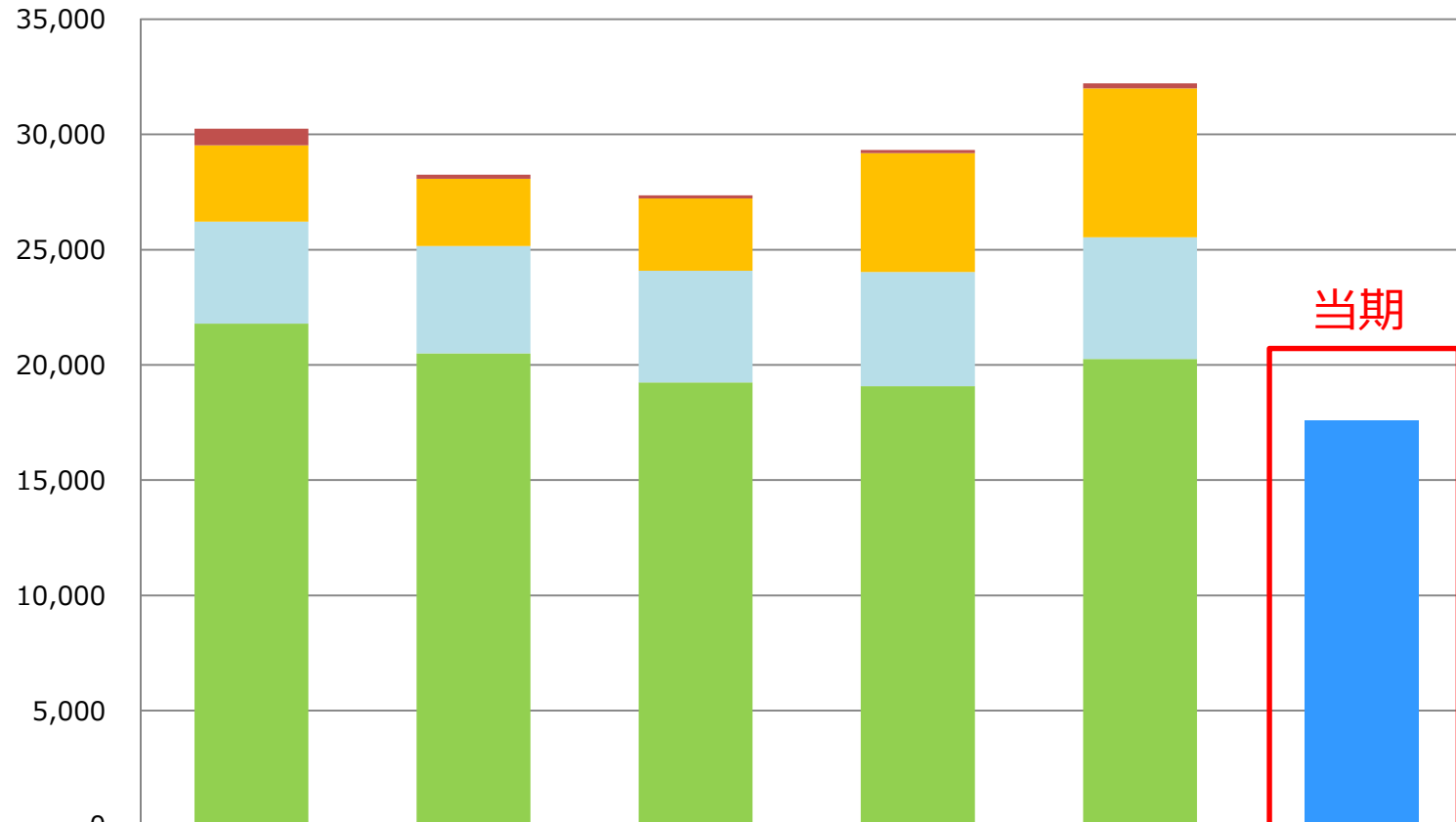
セグメント別営業利益推移



海外売上高推移

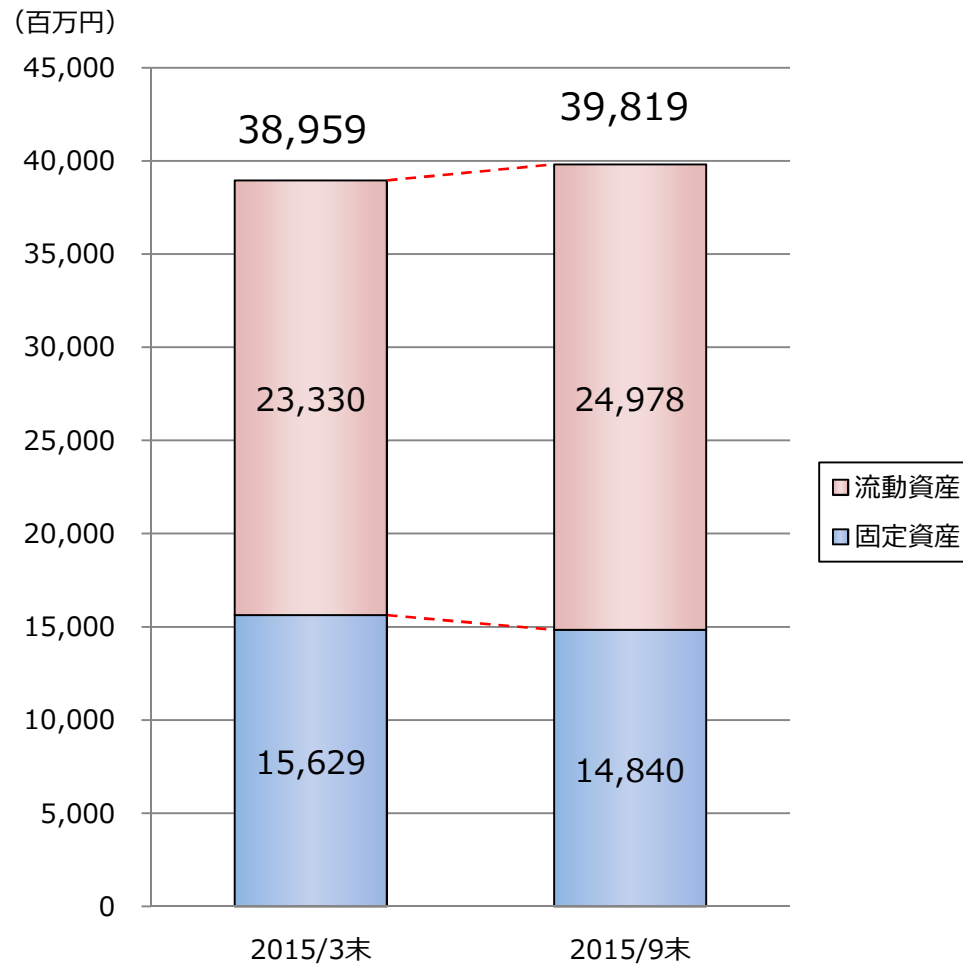


(百万円)



	'11/3期	'12/3期	'13/3期	'14/3期	'15/3期	'16/3上期
■ その他	728	167	129	136	221	(上期合計) 17,577
■ アジア	3,306	2,918	3,134	5,155	6,470	
■ 北米	4,426	4,661	4,845	4,964	5,272	
■ 日本	21,790	20,500	19,245	19,070	20,259	

資産の状況



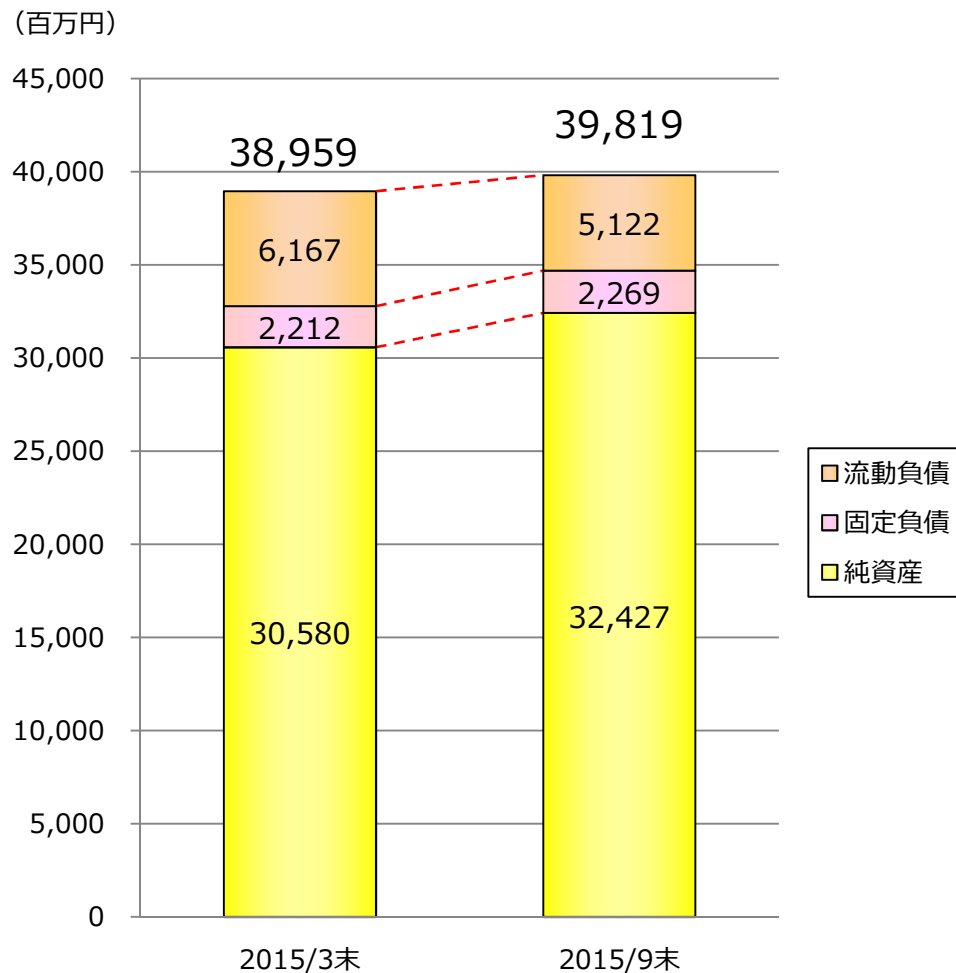
流動資産（前期末比+1,648百万円）

- ・現預金の増加
- ・受取手形及び売掛金減少

固定資産（前期末比△788百万円）

- ・減価償却による有形固定資産の減少
- ・投資有価証券の減少

負債・純資産の状況



流動負債（前期末比△1,044百万円）

- ・短期借入金返済
- ・支払手形及び買掛金等の仕入債務の増加
- ・未払法人税等の減少

固定負債（前期末比+57百万円）

純資産（前期末比+1,846百万円）

- ・利益剰余金の増加

キャッシュ・フロー計算書



(百万円)

	前期 ('15/3) 上期	当期 ('16/3) 上期
営業活動による キャッシュ・フロー	3,370	3,603
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,048	△300
財務活動による キャッシュ・フロー	△936	△1,108
現金及び現金同等物 に係る換算差額	101	△46
現金及び現金同等物 の増加額	1,486	2,148
現金及び現金同等物 の期首残高	3,242	5,521
現金及び現金同等物 の期末残高	4,728	7,670

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・税金等調整前四半期純利益の増加
(+1,471百万円)
- ・法人税等の支払額の増加
(△872百万円)
- ・売上債権の減少による資金の増加
(+225百万円)
- ・たな卸資産の増加
(+457百万円)

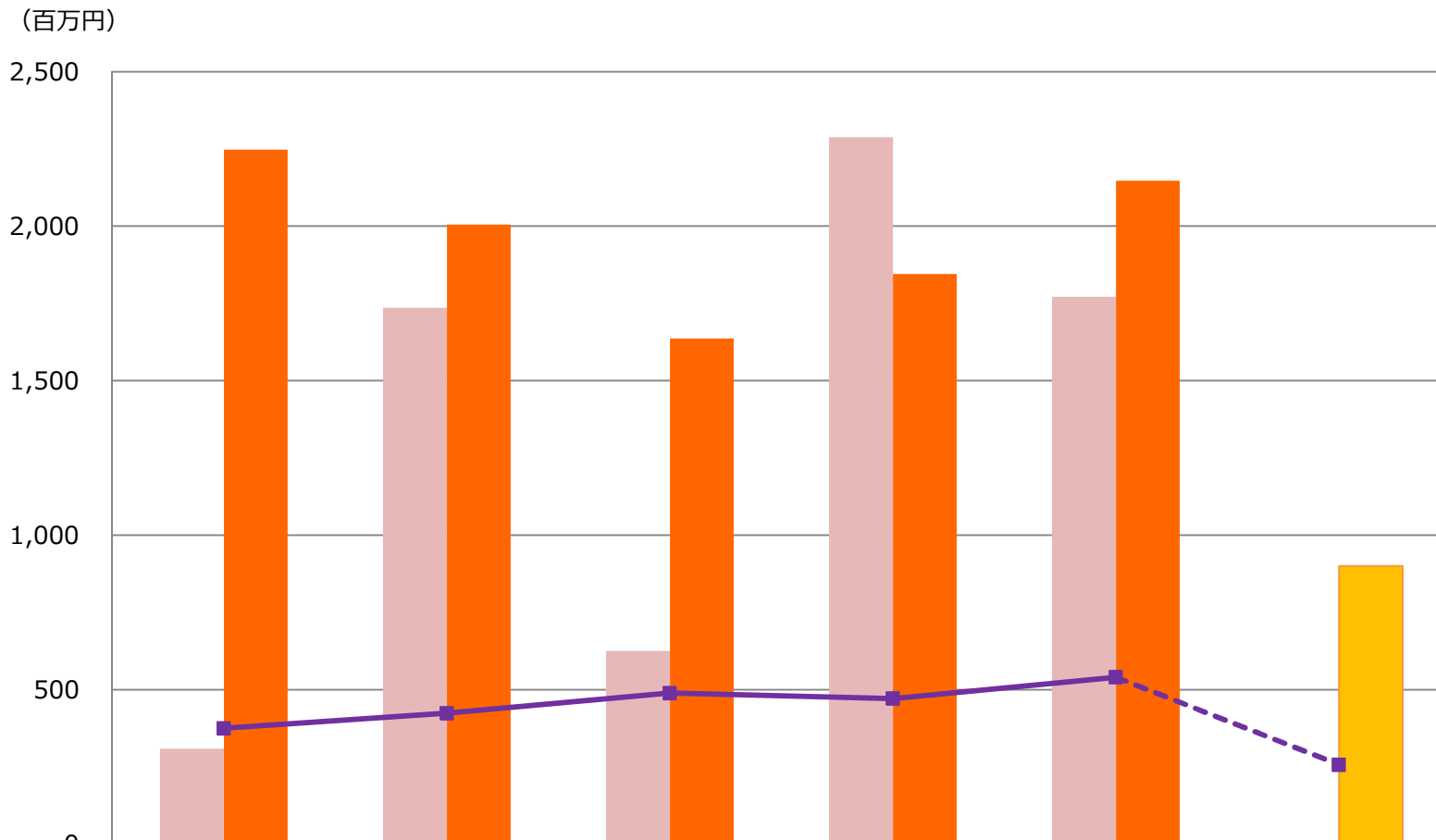
投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・有形固定資産の取得による支出の減少
(+668百万円)

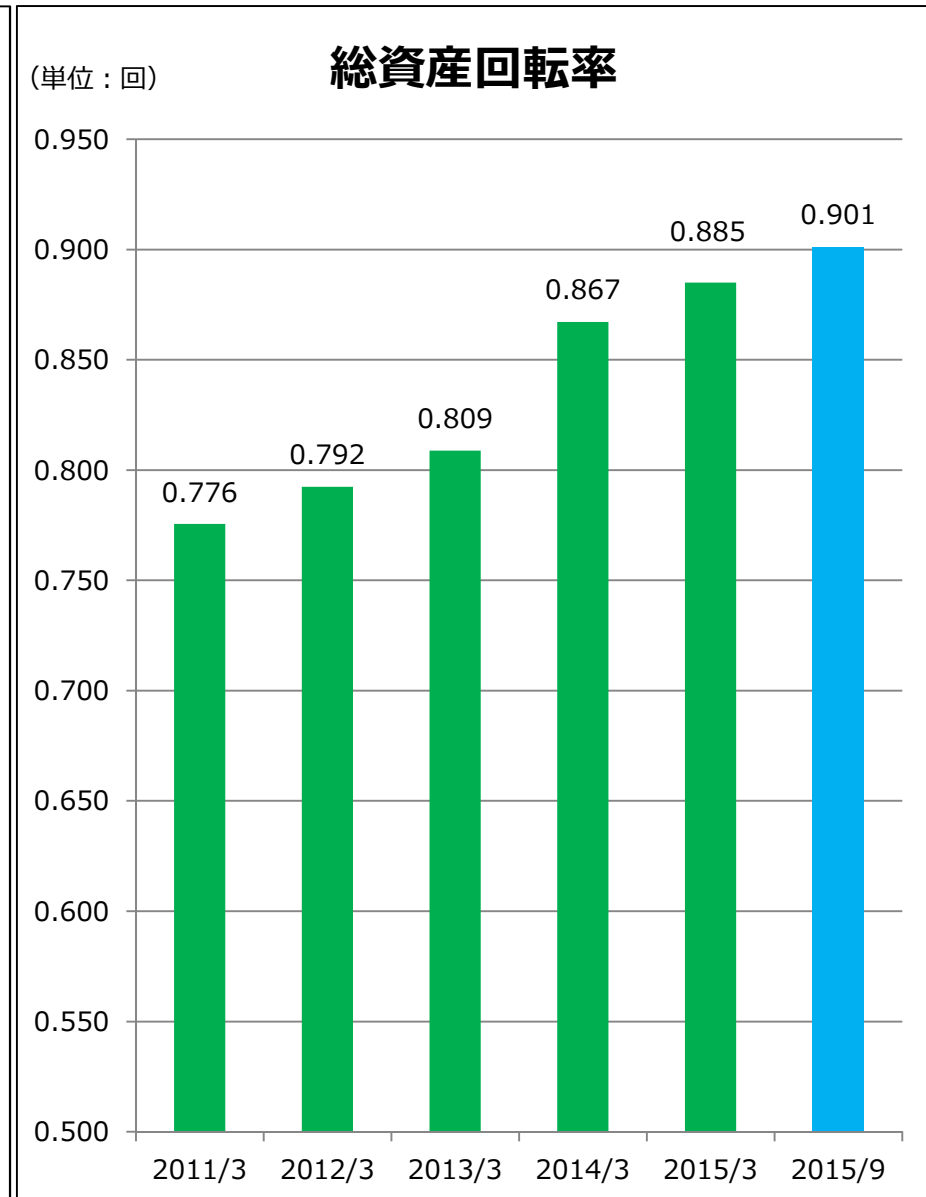
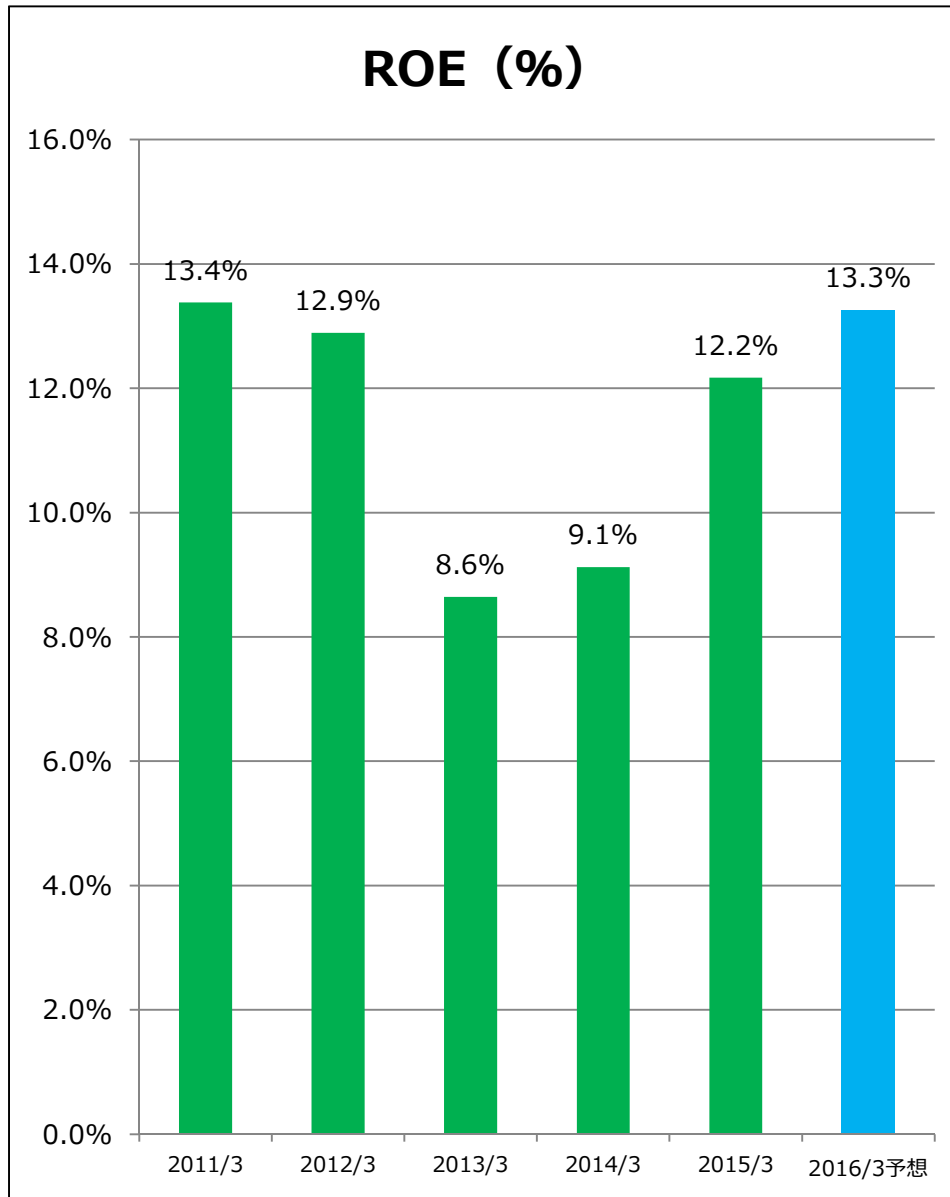
財務活動によるキャッシュ・フロー

- ・配当金の支払額の増加
(△188百万円)

設備投資・減価償却費・研究開発費推移



項目	'11/3期 通期	'12/3期 通期	'13/3期 通期	'14/3期 通期	'15/3期 通期	'16/3期 上期
設備投資	309	1,736	625	2,288	1,771	(非開示)
減価償却費 (のれん償却含む)	2,248	2,005	1,636	1,845	2,147	900
研究開発費	375	424	489	471	540	257



Ⅱ．事業の概況





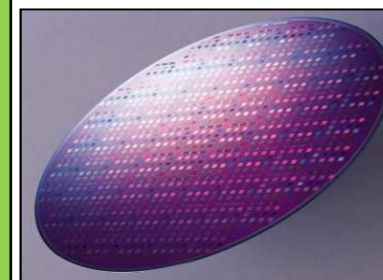
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- ★無水マレイン酸
- ★フマル酸類
- 乳酸類
- イタコン酸
- ビタミンC類
- 食品製剤類
- 化粧品および製剤
- 海苔用活性処理剤
- その他果実酸
- ★2014年度下期より当社名での販売を開始



電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



ライフサイエンス事業



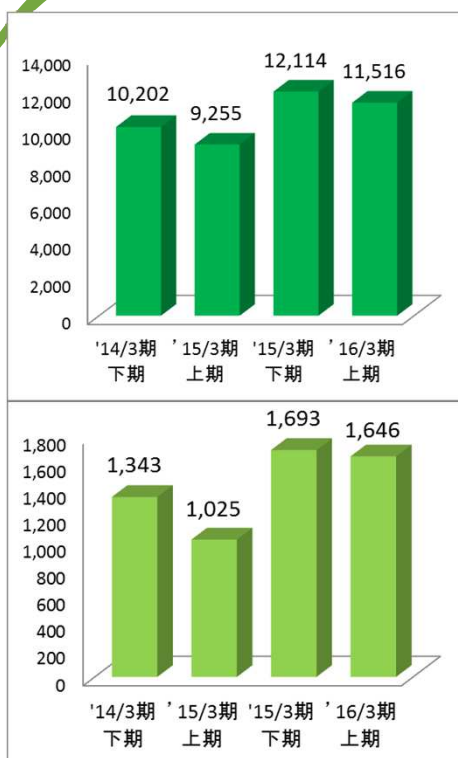
セグメント別売上高・営業利益



ライフサイエンス事業

(単位：百万円)

	前期上期 ('15/3期)	当期上期 ('16/3期)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	9,255	11,516	+2,260	+24.4%
営業利益	1,025	1,646	+620	+60.5%



◇売上高

<増加要因>

- ・無水マレイン酸・フマル酸販売（三井化学品）の売上増
- ・飲料向け果実酸の夏場需要の好調
- ・飲料向け新規採用
- ・円安による為替換算増
- ・リンゴ酸国内・輸出販売好調

<減少要因>

- ・ナフサ価格下落による販売価格下落

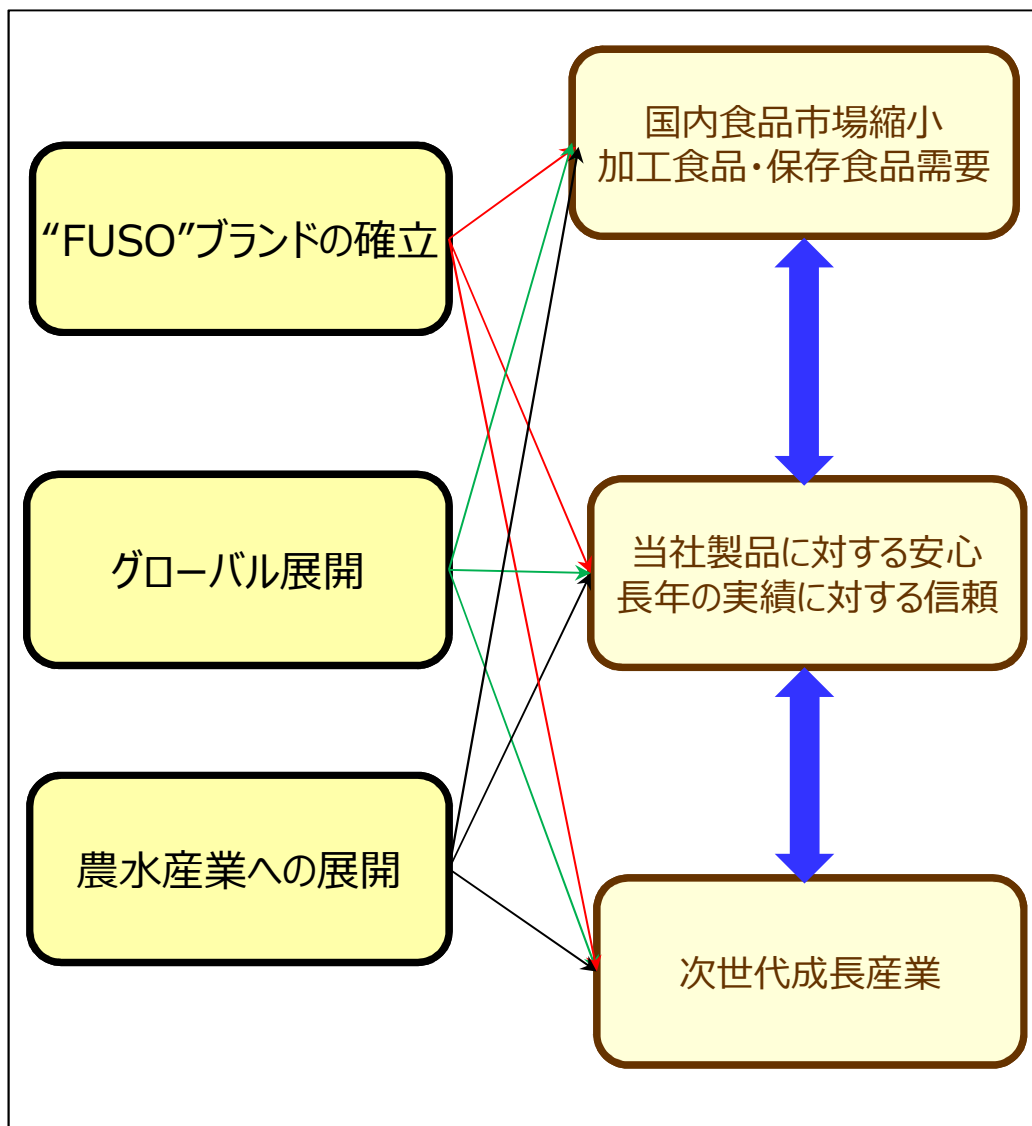
◇営業利益

<増加要因>

- ・売上増に伴う増加
- ・円安による為替換算増
- ・石油化学製品の損益改善
- ・コスト削減

<減少要因>

- ・円安の影響による輸入原材料価格の上昇
- ・一部製商品の販売価格改定（値上げ）の遅れ



“FUSO” ブランドの確立



[リンゴ酸類]

●【1962年】

■ 国内唯一のメーカーとして
確固たる地位を確立



[クエン酸類]

■ 高度な精製技術を活かした
リンゴ酸に続く主力製品

●【1986年】



[グルコン酸類]

■ 日本だけでなく米国でも
高いシェアを確立

●【2003年】



[無水マレイン酸]

■ 東日本唯一のメーカー

●【2014年】



[フマル酸]

■ トップサプライヤーとして



有機酸プラント（現状：三井化学鹿島工場）

譲受予定

2017年7月頃を目途に
生産設備を譲受予定

製造品目

- 無水マレイン酸
- フマル酸



中期目標

安定供給

有機酸事業に係る営業権を平成26年10月に承継しており、
今後は同社鹿島工場内の生産設備を承継し、お客様への安定
供給を継続する

果実酸コンビナート

リンゴ酸生産設備を、鹿島工場に建設し、同工場において有機酸
を軸にした「果実酸コンビナート」を構築することでコスト競争力の
抜本的強化を図る

“FUSO” ブランドの確立



無水マレイン酸

ベンゼンを主原料とする化合物で、
不飽和ポリエステル樹脂の原料、
有機酸、樹脂改質剤などの
ファインケミカルの合成原料に使用

不飽和ポリエステル樹脂

繊維強化プラスチック

洗面台

浴槽

船舶

建材

自動車

リンゴ酸

飲料



コハク酸

調味料



フマル酸

入浴剤、食品、紙薬品、飼料、ラテックス、
不飽和ポリエステル樹脂、
トナーバインダーなどに使用

樹脂改質剤

飼料添加剤

塗料

酸源

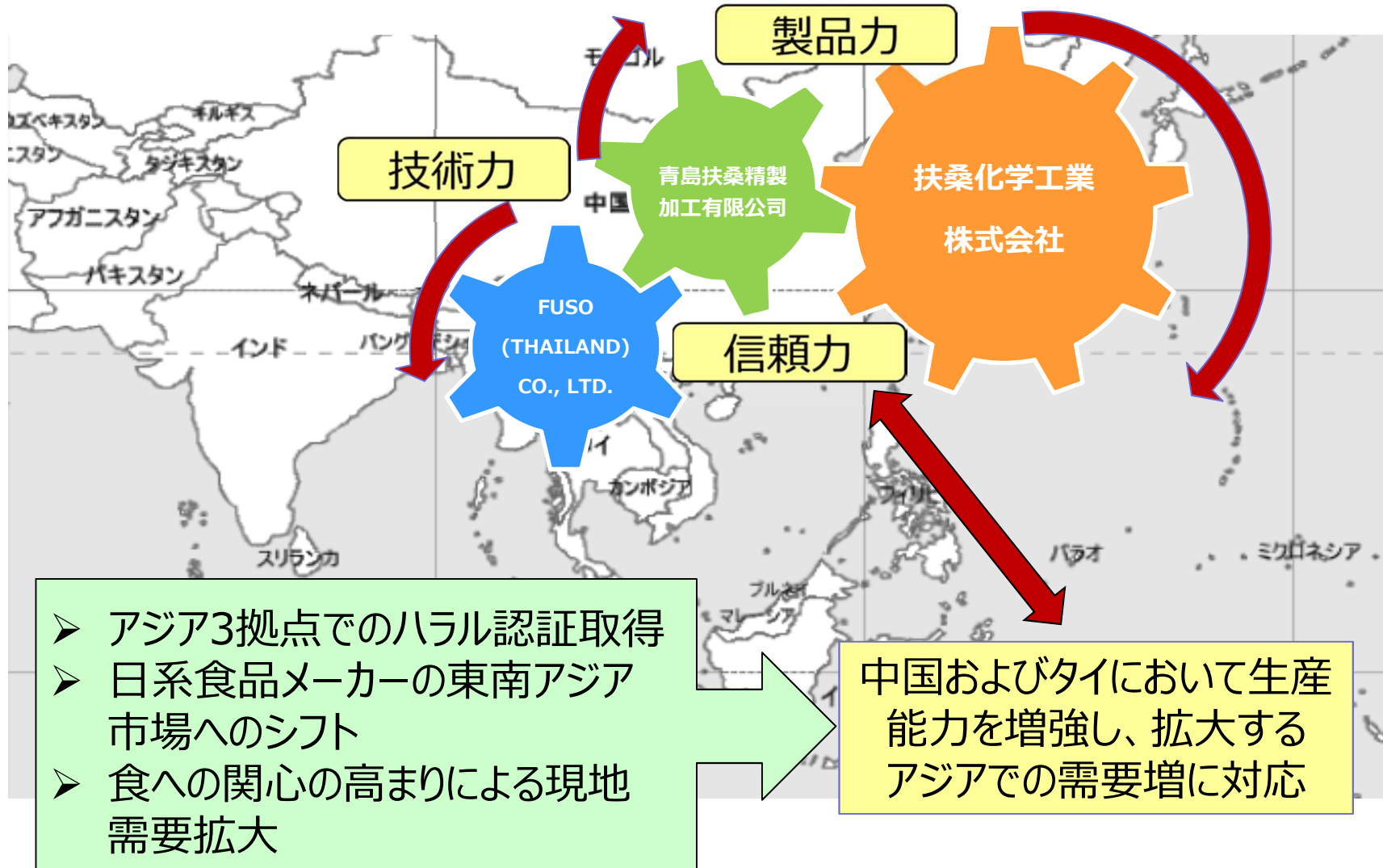


フマル酸

サイズ剤



◆ 東南アジア市場でのビジネスチャンス拡大 ◆



グローバル展開（北米）



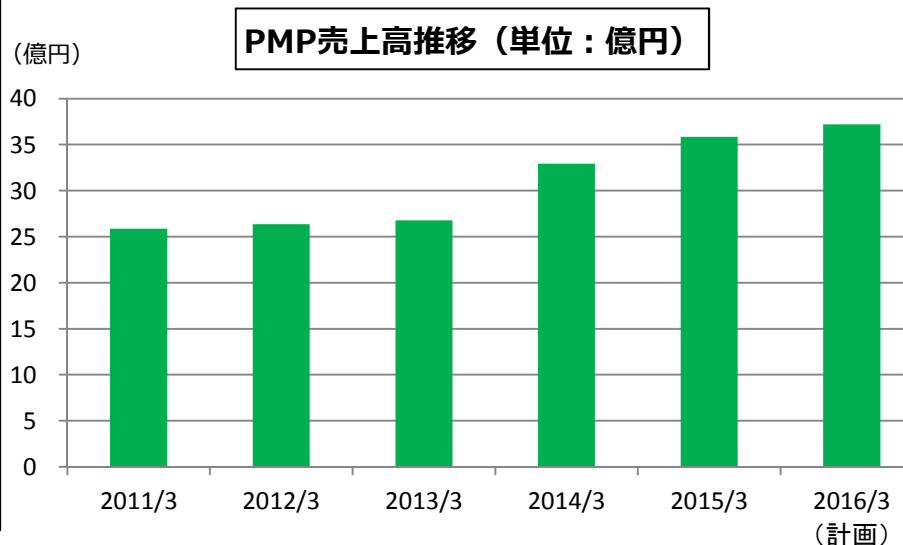
PMP Fermentation Products, Inc.

2003年（平成15年）12月
扶桑化学工業100%子会社に

2011年（平成23年）5月
固定資産を一部売却
↓ ← 選択と集中
グルコン酸類の製造販売に注力

2012年（平成24年）
～ 2015年（平成27年）

- ・ 北米市場での強固な経営基盤の確立
- ・ 米国メーカーとしての信頼と安心を獲得
- ・ 高度な発酵技術をベースに 高品質な製品を安定的に供給
- ・ 競争力のある製品群にて確実な利益
- ・ 高いマーケットシェア



電子材料および 機能性化学品事業



セグメント別売上高・営業利益



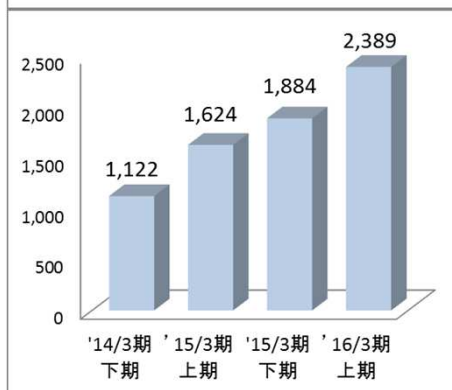
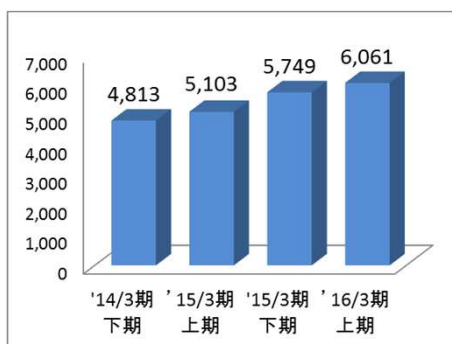
電子材料および機能性化学品事業

(単位：百万円)

	前期上期 ('15/3期)	当期上期 ('16/3期)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	5,103	6,061	+ 957	+ 18.8%
営業利益	1,624	2,389	+ 764	+ 47.0%

売上高

営業利益



◇売上高

<増加要因>

- ・スマートフォン等、好調な半導体需要
- ・CMP分野での当社製品への切替
- ・値上げによる価格改定
- ・一部製品の前倒し出荷
- ・円安による為替換算増

<減少要因>

- ・シリコンウエハの研磨技術向上に伴う使用量の減少

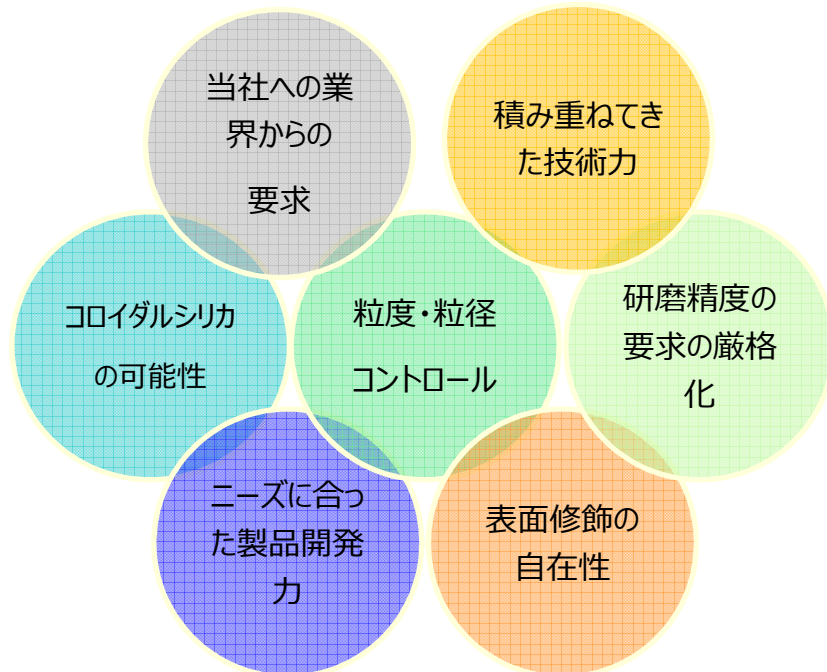
◇営業利益

<増加要因>

- ・売上増による増加
- ・稼働率向上による原価単価の低減
- ・円安による為替換算増

<減少要因>

- ・円安の影響による輸入原材料価格の上昇



■ シリコンウエハポリッシング

- ◇最終研磨用途向け
→世界市場80%以上のシェア
- ◇一次・二次研磨向けにも展開

■ ナノパウダー

- ◇トナー用途
- ◇他



■ 半導体CMPスラリー

- ◇酸化膜 (SiO₂)
 - ・ 層間絶縁膜 (ILD)
 - ・ 素子分離 (STI)
- ◇メタル (W, AL, Cu…)
- ◇ポリシリコン、低誘電率膜 (Low-k)



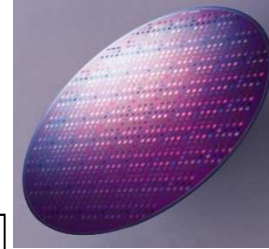
■ 新規用途への開発

- ◇フォトマスクブランクス研磨
- ◇ナノファイバー、添加剤

半導体市場及び市況

< Mobile & Wearable >

- 最先端SoC & GPU
- Flash memory
- Wireless ・Sensor



<Medical & Healthcare>

- ASSP (CPU/DSP)
- 制御マイコン ・画像処理IC

TSMC
Samsung
Intel

Toshiba
Micron
Hynix

<Servers & Networking >

- 通信系IC



<Industrial & Instruments>

- ASSP(CPU/DSP) ,制御系マイコン
- Power系IC ・Sensor

Intel

Renesas
TI
Infineon
ST Micro

扶桑化学

<Automotive>

- ASSP,制御系マイコン
- Power系IC
- Sensor

・ シリコンウエハ市場

- 過去最高の出荷面積
- 300mmウエハ500万枚／月のうち、スマートフォン向けは3分の1と推定
パソコン販売は不振だが需要の2～3割

・ 半導体市場予測

- 2015年度上期は、堅調に売上推移したが、牽引するアプリケーションの調整局面により 下期は生産調整の可能性大
- 14～16nm世代の本格立ち上げの年
- iPhone 6s/6s Plus販売の影響
- パソコン向けは減少、スマートフォン・タブレット、自動車向けへの使用が増加

・ 半導体大手(Intel/Samsung/TSMC)の状況

- 2014年末～15年に 1 Xnm世代へ突入、2017年には10nmへ
- Intel/Samsung/TSMCがモバイル市場で熾烈な競争
- Intelのパソコン向け出荷不振
- 450mmウエハへの移行は不透明

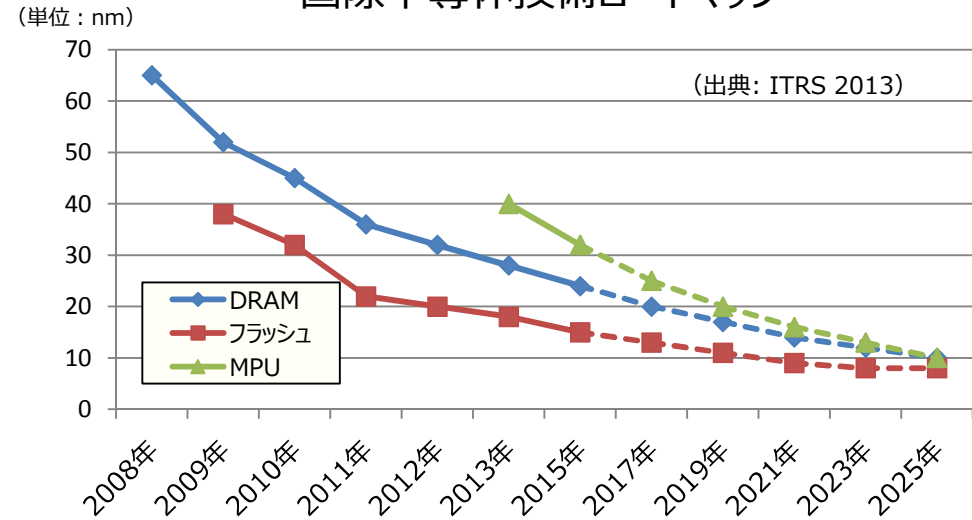
半導体市場と微細化の推移



今後も半導体の
微細化は進む

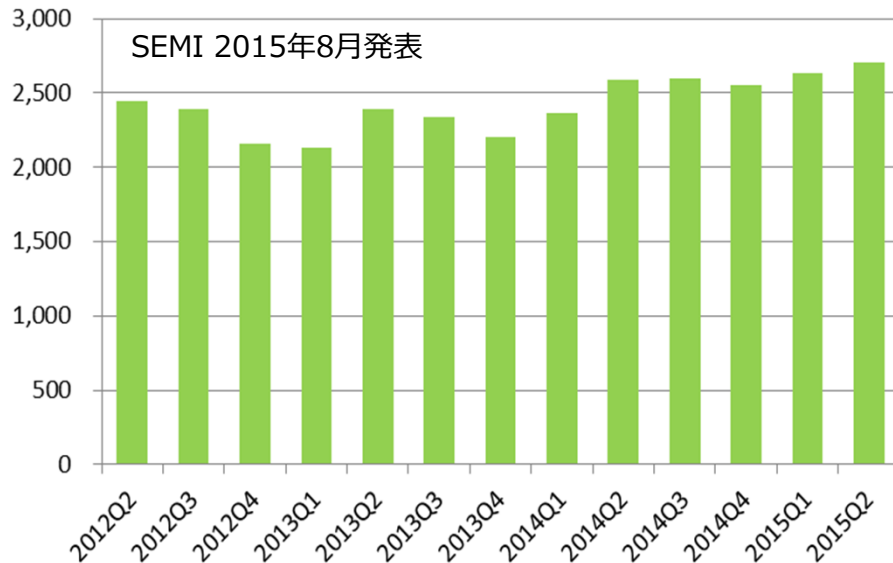
半導体市場は緩やかな
成長が続く
(14~17年 平均3.1%)

国際半導体技術ロードマップ



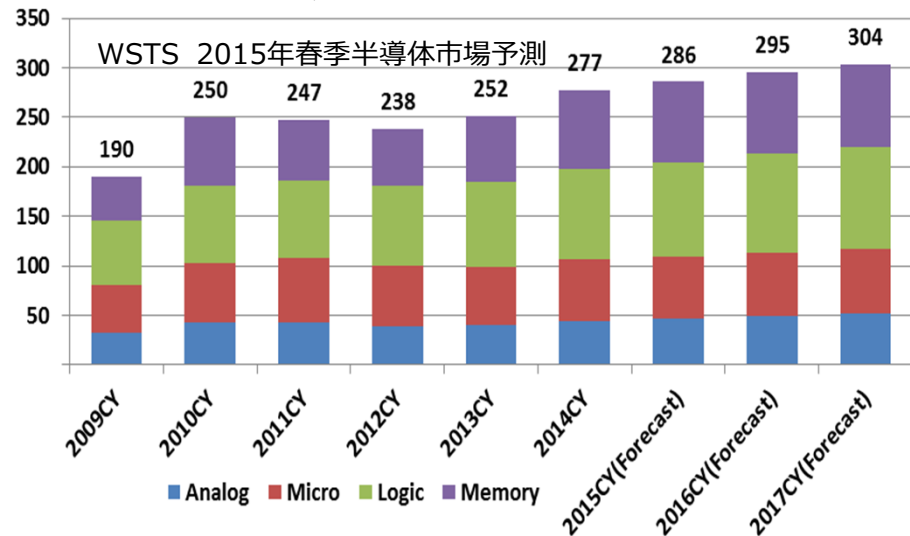
(百万inch²)

シリコンIC世界出荷面積



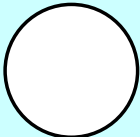
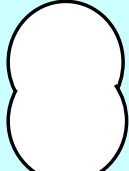
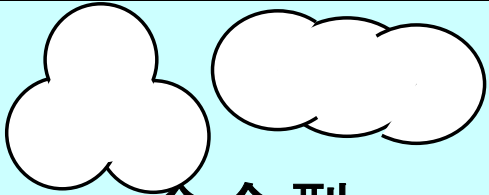
(十億ドル)

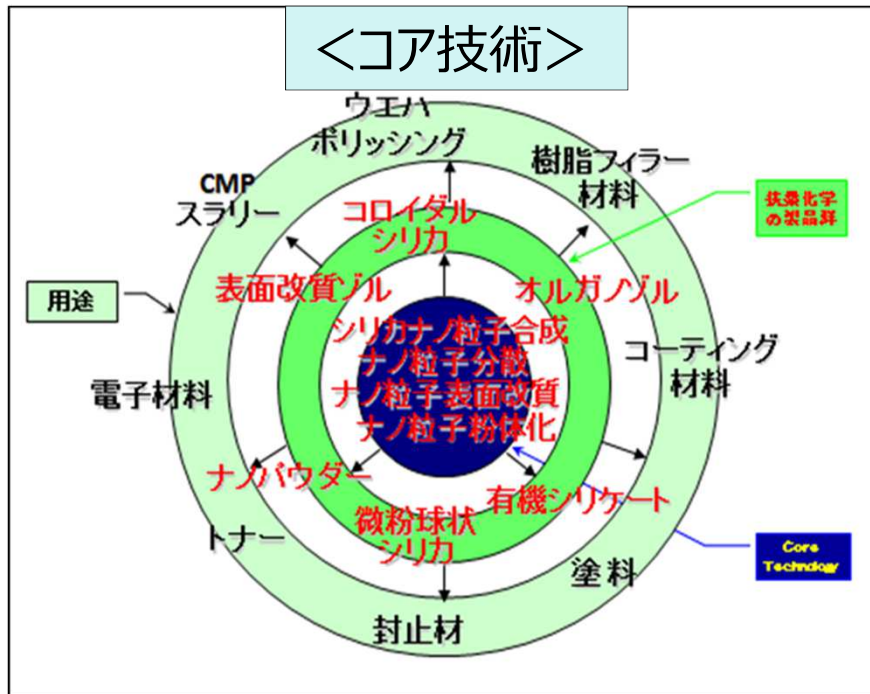
世界のIC 製品別市場



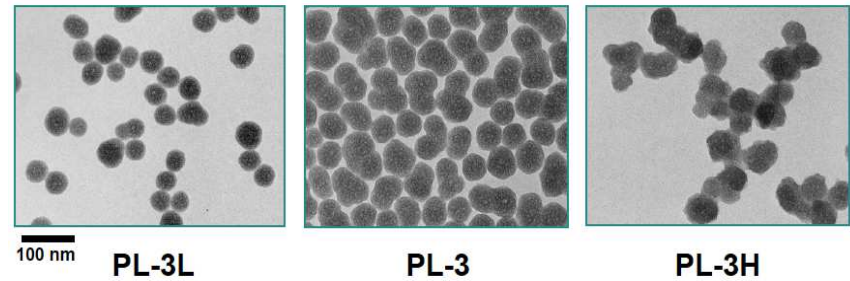
超高純度コロイダルシリカ (PLシリーズ)



グレード名	PL-06	PL-1	PL-2	PL-3	PL-7	PL-10
一次粒子径(d1) [nm]	6	15	25	35	70	100
シリカ濃度 [wt%]	6%	12%	20%	20%	23%	23%
シリカ粒子形状						
 真球型	<input checked="" type="checkbox"/> PL-06L	<input checked="" type="checkbox"/> PL-2L	<input checked="" type="checkbox"/> PL-3L			
 まゆ型			<input checked="" type="checkbox"/> PL-2	<input checked="" type="checkbox"/> PL-3	<input checked="" type="checkbox"/> PL-7	
 会合型		<input checked="" type="checkbox"/> PL-1		<input checked="" type="checkbox"/> PL-3H		<input checked="" type="checkbox"/> PL-10H



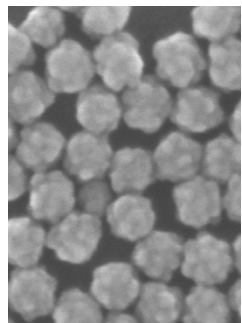
1. 会合度制御技術



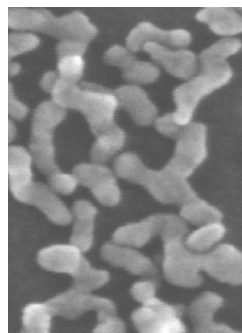
真球型	まゆ型	会合型
低	1.6	2.0 会合度
		2.7 高

→

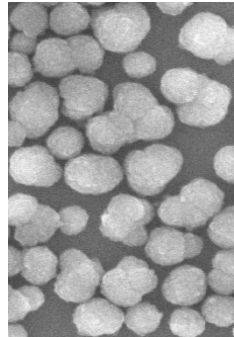
2. 形状制御技術



(A) 金平糖状

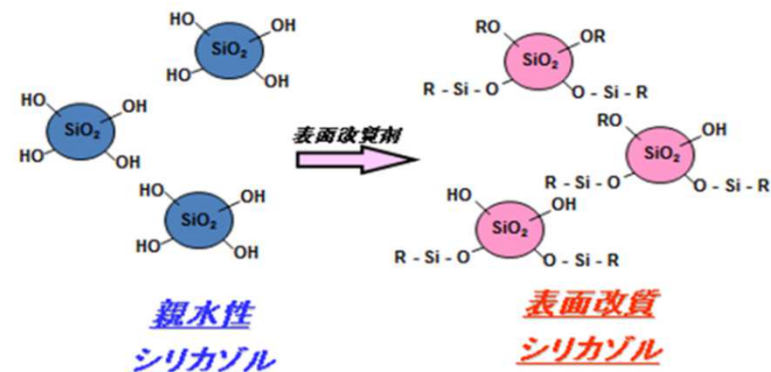


(B) 紐状



(C) 塊状

3. 表面改質技術



1. 背景

さらなる微細化に伴い、半導体研磨スラリーへの品質要求は一段と高度化に。

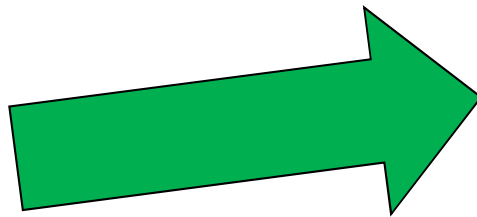
→超高純度コロイダルシリカの使用場面が多くなると期待される。

2. 具体的施策

- ・ 厳しくなる顧客要求に対し、粒径 & 形状コントロール、表面改質技術により迅速に対応。
- ・ CMP分野では、ケイ酸ソーダ法シリカやヒュームドシリカからの切替を進めシェア拡大を図る。
- ・ ウエハ研磨向けには、超高純度の特長を生かした使用場面を探索し物量増を図る。

3. 上期成果

・売上高：50億円
(上期)



半導体研磨分野向け製品
中期販売目標：120億円/年
年平均10%前後の成長を見込む

高純度シリカの安定的大量生産で培った技術・知識を応用し、新分野へ果敢に挑戦する

1. 具体的施策

高純度かつ粒子径、形状を自由にコントロールできる技術を基礎として表面改質技術、パウダー化技術と組み合わせて種々の用途向けに新製品を開発する。

2. 開発品

・ナノパウダー

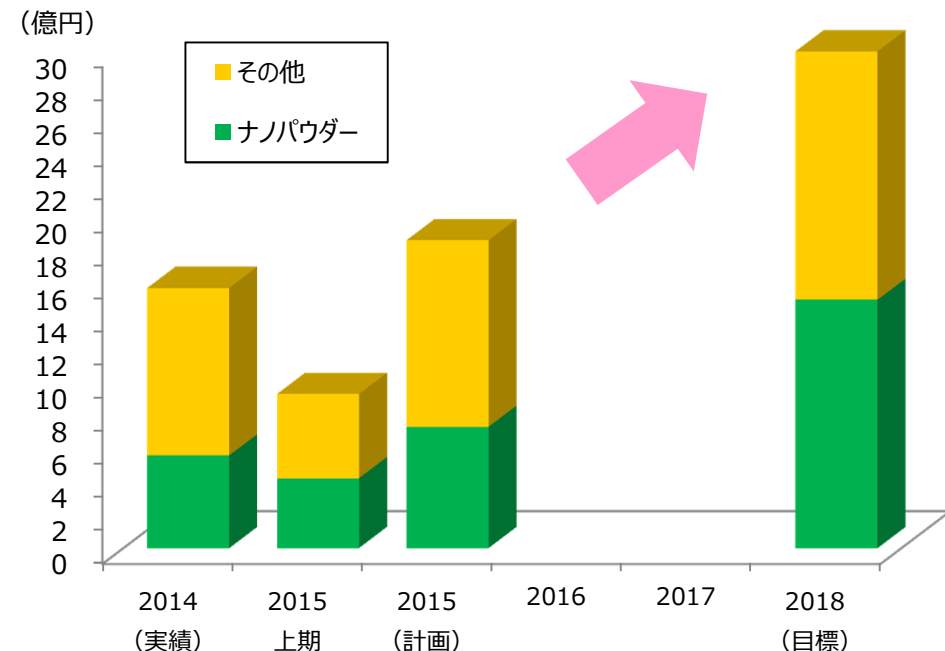
・中空シリカ

・中空メソポーラスシリカ

半導体研磨分野以外向け製品

中期販売目標

30億円



Ⅲ. 2016年3月期業績予想



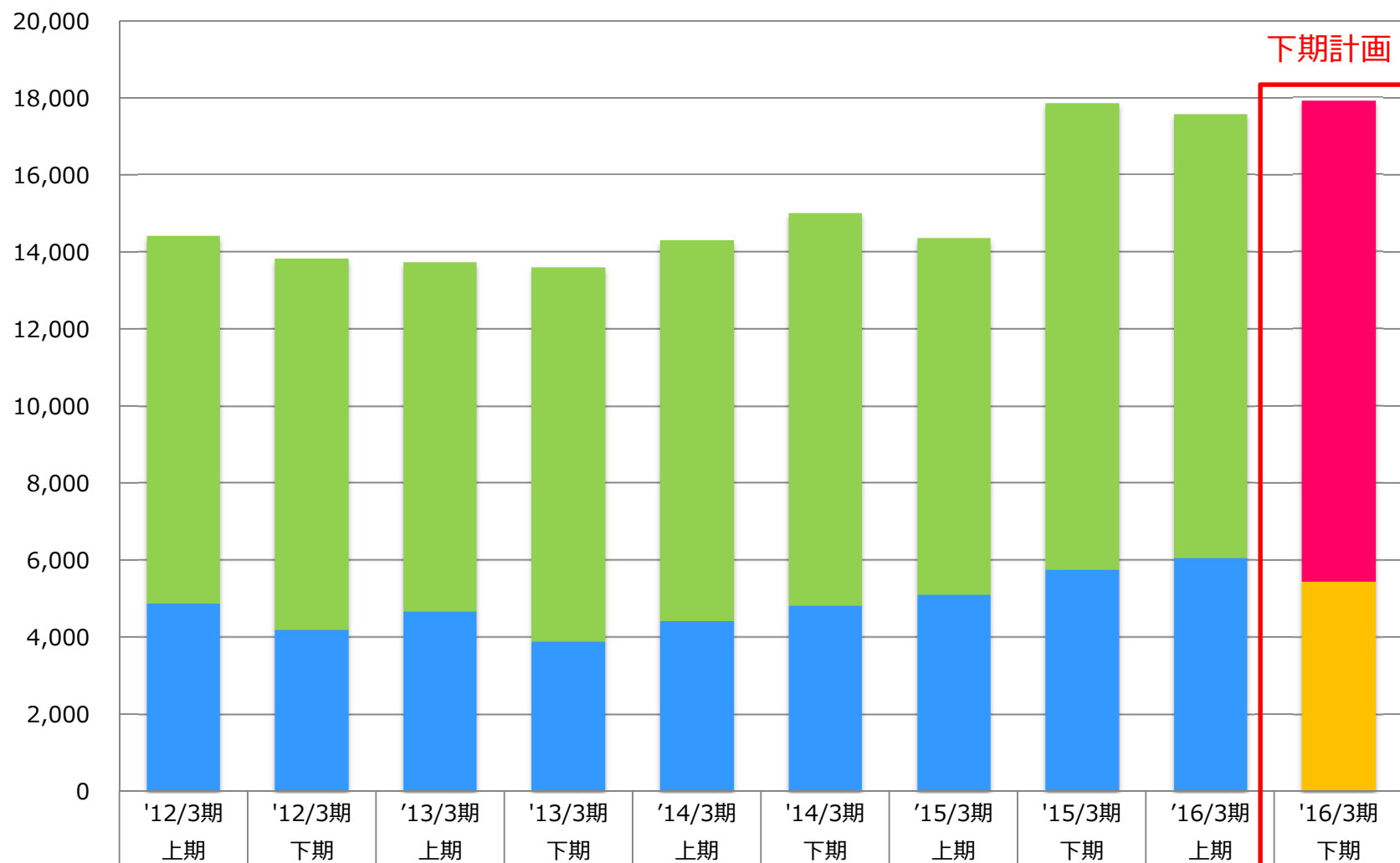
2016年3月期 通期業績予想



(単位：百万円)

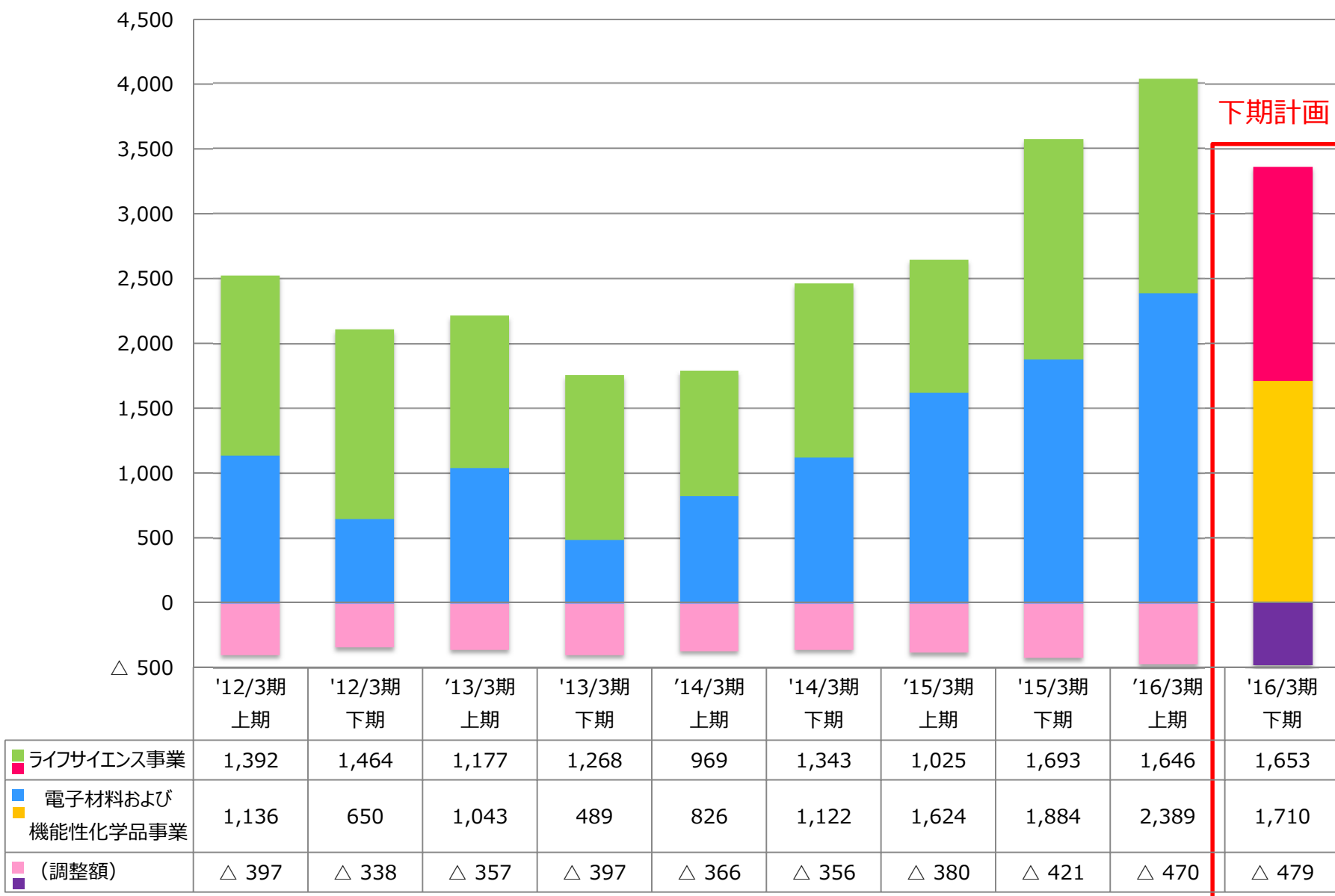
	'15/3期 上期 (実績)	'15/3期 通期 (実績)	'16/3期上期 (実績)	'16/3期通期 (10/9公表 修正計画)
売上高	14,359	32,223	17,577	35,500
ライフサイエンス事業	9,255	21,370	11,516	24,000
電子材料および 機能性化学品事業	5,103	10,853	6,061	11,500
営業利益	2,270	5,426	3,564	6,450
ライフサイエンス事業	1,025	2,718	1,646	3,300
電子材料および 機能性化学品事業	1,624	3,508	2,389	4,100
(調整額)	△380	△801	△470	△950
経常利益	2,299	5,524	3,660	6,500
当期純利益	1,441	3,452	2,446	4,300
一株当たり当期純利益	45.7 円	109.5 円	77.6 円	136.4 円

セグメント別売上高推移



ライフサイエンス事業	9,541	9,631	9,065	9,720	9,887	10,202	9,255	12,114	11,516	12,483
電子材料および 機能性化学品事業	4,875	4,199	4,675	3,894	4,423	4,813	5,103	5,749	6,061	5,438

セグメント別営業利益推移



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、グループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。

